平成 20 年 5 月 22 日

ワーキンググループの設置について

平成 20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
地域検討会(長崎) 事務局 日本エヌ・ユー・エス㈱

０．何故、ワーキンググループを派生させるか？：早期かつより良い対応を図るため（体制づくりと組織化を想定）

これまでの清掃活動や地域検討会での論議を通じて、海岸漂着ゴミの回収・処理という目標達成のためには、解決しなければならない問題が多々ある状態と考える。

ここでいう「問題」とは、「望ましい姿」（安全で清浄な海岸）と「現実」（漂着ゴミの堆積した海岸）とのギャップであり、地域検討会を通じて、ギャップを埋めて、望ましい姿に近づけたいと考える。一般的に、多くの問題は一人では解決できない。特に、海岸漂着ゴミ問題のように、沢山の要因が複雑に絡み合うような問題については、人にアドバイスを求めたり、関係する人々が力を合わせないと解決できない（堀公俊、2004）。その力を合わせるのが組織であり、異なる意見を調整し、沢山の人の知恵とエネルギーを合わせて一緒に考え、チームの良さを生かした斬新なアイデアによるコンセンサス（合意）を生み出して行く「協働」を実行することによって、目標を達成できるものと考える。なお、コンセンサスに正解はないかもしれないが、現状で最適と思われる案を採用し、不都合が発生した場合には適宜修正して対応することを前提とする。

この問題解決のための地域検討会ではあるが、来年 2 月までという期間の業務の制約があり、またあと 3 回の地域検討会では目的の達成が困難と見込まれる。そのため、地域検討会とは別に、将来的に活動を担ってくださると考えられる地元の検討員の方々に声をかけ、ワーキンググループとして重要な課題の整理と対応策の検討を推進し、地域の環境保全という初期の目標達成に近づけたいと考える。

このワーキングにおいては、体制づくりの課題整理を行うとともに対応案を考え、これを地域検討会にあげて判断を仰ぐこととしたい。ワーキングは決定機関ではなく、検討・整理・提案を行う自主的かつ任意の機関としたい。

Yes か、No か？Yes なら、これで良いか？さらに何かあるか？No なら、直ちに解散。

ワーキングが組織として機能するためには、組織としての方向性の共有、正しい認識と組織内での一致、メンバー間の相互理解が必要である。そのため、上記に Yes の場合は、以下の目的、目標、ルール、プロセスを確認してから、論議に入りたい。

ワーキンググループの設置に当たって
（キックオフミーティング資料）

以下は、事務局の案であり、今後のワーキンググループを通じて、皆さんの意見を元に修正していくものである。

１．目的設定

（試案）「対馬の海岸漂着ゴミの効果的・継続的な回収・処理体制を構築する」

ご意見を！

２．目標設定

＜試案＞*ご意見を！*

「最終的な成果物は何か？目的達成のための、課題整理とそれに対する対策の整理」

（目的の明確化と課題の整理、課題の対応案整理）

（1）卑近な目標：協働の場の形成（体制づくり）

年内に体制づくりの基礎の構築

（2）中期的な目標：清掃活動の継続

海岸清掃体制の継続・進展

（3）長期的な目標：発生源対策（海外、事業者への働きかけ）

県内の清掃活動への展開、発生源対策への進展

３．ルール設定

第１回打合せ時に、皆で決める。案・例として、以下を上げる。

＜方針＞（試案）*ご意見を！*

- 自主的な非公式の会合である（無償）。
- 関係者の信頼性構築のため「ＳＯＦＴ」に！

Speed（迅速な対応）：課題や質問への対応は速やかに。

Open（公開性）：結果は公開を原則とし、当面は地域検討会に提案・報告を行う（将来的にはホームページなどで公開）。適宜、参加者を追加。

Fairness（公平性）：対等な立場で、分け隔てなく、えり好みせず、納得できる論議を行う。

Transparency（透明性）：包み隠しのない議論を行う。議事録は回覧。

- 前進あるのみ（停滞と後退禁止）。
- 最終的な判断は、地域検討会で。

＜ルール＞*ご意見を！*

- 相手（の人格）を非難しない

・ 人の話を聞く
・ 思い込みを捨てる
・ 愚痴や文句を言わない
・ 楽しく議論する
・ できることを言う。（できないことを言うのではなく、逆にそこからこうしたらできると考える。不可能な理由と原因を考え、打開策を考える）
・ 最後まであきらめない。

４．プロセス

・ 第1回のWGで、WG設置の意思を確認。
・ その後、WGの目的、成果物、スケジュール、メンバー、位置づけ（論点整理であって意思決定は検討会）、課題の整理のうち、できることを実施。
・ 今後は、まずこれまで取り上げられた課題を整理し、体制作りに関する課題を挙げてもらうブレスト(＝ブレインストーミングの略)を実施。課題を整理して、可能であれば対応案を整理する。
    ・ どんなことでも発言し、それを大きなグループに分けて整理し、更に取り組むべき順位付けを行う。
    ・ ブレストの条件：自由奔放、質より量を、批判厳禁、付け足し歓迎
    ・ 整理された内容について、具体の対策と協働作業のあり方を論議する。
    ・ 各回の打合せ後、整理内容と対応内容を各人にメールし、修正後に同意を得た上で、地域検討会に上げる。場合によっては、各人・事務局に次回までの宿題をだし、情報収集とともに、メール・電話にて意見交換し、議事に反映する。

・ 第4回地域検討会にワーキンググループ設置について表明する。
・ 次回検討会（第 5 回地域検討会）までにWGを重ね、WGの趣旨や、課題について検討・整理したものを第5回検討会に提示し、対応策を協議いただく。
・ 次回検討会（第 5 回地域検討会）までにWGを重ね、意志決定のための材料を提供する。
・ 第 6 回検討会で意思決定。併せて、それまでに、次年度に本業務がないことを想定し、事務局なしでのWGや地域検討会継続の方針を決める。

５．メンバー

海岸清掃活動は、対馬市と地域が協力しあって実施しないことには継続しない。そのため、メンバーは以下を想定する。追加要望があれば、対応を図る。ただし、あまり人数が多いと、まとまりがつかなくなる。その場合は作業ごとに分科会を作るなどの対応が必要。

・ 対馬市廃棄物対策課の若手（当面は阿比留係長）

- 地域の代表あるいはとりまとめ役・旗振り役として、NPO 法人「対馬の底力」代表
- 地域検討会の若手？で、民間の立場から、対馬エコツアーの上野さん、しま自慢観光リーダーの小島さん
- 事務局（佐藤が当面は代行）
- ゆくゆくは、地域で重要な利害関係者（対馬全体の漁業連合会で意識の高い方、対馬での海岸管理者、協力可能なＮＰＯなど）もメンバーとして想定し、なおかつ次世代への引き継ぎも考慮して随時人選を再考して行く。

ワーキングループ（仮称）のキックオフミーティング
議事概要（案）

日時：2008 年 5 月 22 日 18 時～21 時 10 分
場所：対馬市役所　会議室
出席者：上野芳喜（(有）対馬エコツアー　代表)、小島裕（しま自慢観光リーダー)、長瀬努（ＮＰＯ法人「対馬の底力」代表)、槇野繁之（同法人　監査役)、阿比留忠明（対馬市役所廃棄物対策課係長)、佐藤光昭（事務局：日本エヌ・ユー・エス（株))
内容：
・ワーキンググループ設置の趣旨説明：事務局
・体制づくりに関するキックオフミーティング：全員で論議
議論内容：
１．ワーキンググループ設置の是非の論議（別紙趣旨等を参照）
・ ワーキンググループ（以下、WG という）設置の背景・趣旨の説明
・ WG 設置の是非論議（→設置で合意）
・ キックオフミーティングの実施（課題の論議、次回以降のプロセス等を論議）
２．キックオフミーティングの内容
・ 何を論議するか→対馬における効果的･継続的な海岸清掃活動の体制づくりの具体的な課題とその対応案を議論・整理する。
・ 検討委員会で整理された課題のほか、NPO が抱えている課題、それらへの対応案の具体を今後論議し、体制づくりの内容を煮詰め、道筋を付けていく。
・ 当面は、6/4 の第 4 回地域検討会に第二回目の WG を開催し、目的・目標・ルール等の個別を議論したのち、本論の議論に入る。
３．キックオフミーティングにおける意見内容
＜WG の設立・次回以降の予定について＞
・ 趣旨に書かれたワーキンググループの目的に関して意見交換を行い､WG の立ち上げに賛同頂いた。
・ 第 4 回地域検討会で WG 設立の承認が得られたら、その後目的、目標、ルール、プロセス、メンバーを再検討し、目的に沿って具体的な提案や、課題整理を行う。
＜意見交換＞
・ ＮＰＯ法人の活動趣旨説明を受け､WGで協働して島民の意識改革までを考えた漂着ゴミの清掃活動、イベント開催などについて、具体的課題と対応案を検討して行く。（趣旨：地域の活性化。その手段の一つとしての漂着ゴミの回収・処理活動を実施）
・ ＮＰＯから、現状の問題点等について、説明を受けた（清掃員の確保は可能。問題は回収ゴミの保管・処理場所の確保、リサイクル機器の導入費の捻出など)。リサイクルについては､島内に処理業者が出てくれば､そこに処理してもらうことも検討する。
・ 今後の WG では、NPO の課題解決も含め、地域検討会の検討員に具体的な解決方法

を整理・提案するなど、対応案を検討して行く。

- 例えば、リサイクルに関しては、対馬市にある小型の発泡スチロール減容器の利用あるいは研究利用の方法を廃棄物対策課にお伺いする、などである。一次的な保管場所については、今後保健所等と協議するなどにより検討を進める。
- これまで整理された課題のうち、法定外目的税、産廃税の利用については、対馬市、長崎県と協議し、導入あるいは利用に関して、どのような方法が適切かを検討し、地域検討会の検討員あるいは当該部署の担当箇所に相談に行く。
- 島外への回収ゴミの搬出については、搬出先である北九州市と、対馬市あるいは長崎県で協議して頂くことを地域検討会に提案する。
- 環境省の補助金については、環境省九州地区環境事務所に導入の可能性をご相談させていただくこととする。
- 発泡スチロールの減容液についての情報を紹介。2 件のうち、一つの製品は減容液のみの販売はせず、減容システムのみの販売を行う（約２千万円）。もう一つのドラム缶での減容システムは、石油と同様な運搬方法が必要なため、対馬への導入が困難（コストが高くつく）。
- 対馬市民に漂着ゴミの問題意識を持って頂く方法として、対馬島内での環境教育を適宜実施して行くことが提案された。今後予算措置や、具体策について、検討を加えて行く。
- ワーキンググループの名称を募集する。

以上